

# 噴火湾環境情報 NO.2

2017/12/12

## 津軽暖流の湾内流入 持続中!!

道総研函館水産試験場  
調査研究部  
担当: 西田, 渡野 遼

2017年11月27~28日にかけて、函館水試調査船金星丸を用いて、噴火湾及びその周辺海域の環境調査を実施しましたので、その結果をお知らせします。深度10mにおける水温と水温偏差の水平分布を図1(a)、(b)、深度10mと50mにおける塩分の水平分布を図(c)、(d)に示します。10m水温は、全域9~10°C台で、ほぼ平年並となっています。次に塩分は深度10mの湾奥部を除き両深度ともに33.6以上(津軽暖流水の指標)となっており、噴火湾及びその周辺海域は津軽暖流水で覆われています。

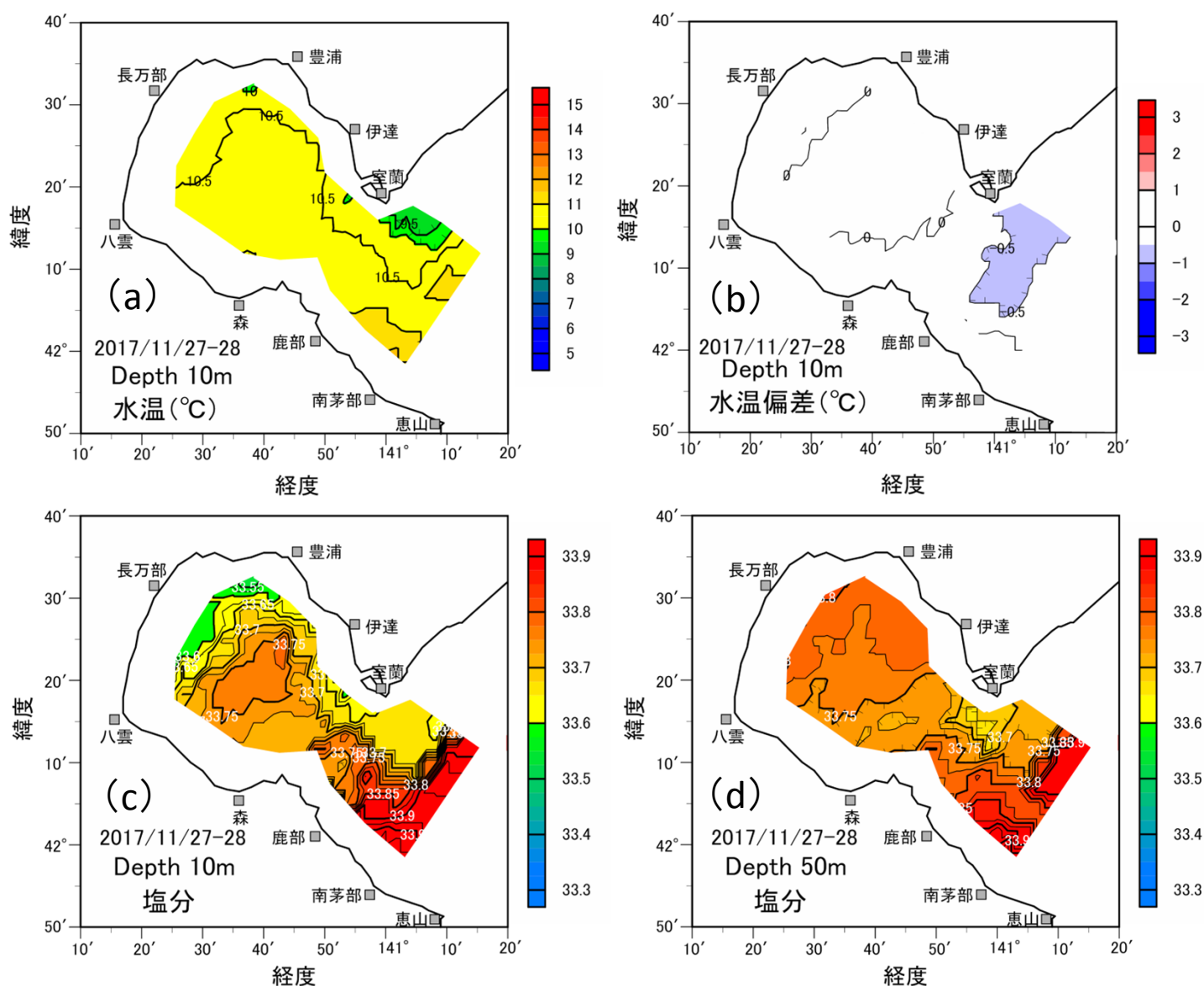


図1 噴火湾およびその周辺海域における10m深(a)水温、(b)水温偏差、(c) 10m深塩分、(d) 50m深塩分の水平分布

噴火湾における水塊の占有率を図2に示します。津軽暖流水の湾内占有率は約89%であり、暖流の湾内流入量は平年よりも多くなっています。

噴火湾底層における溶存酸素量の水平分布を図3に示します。溶存酸素量は八雲沖で低くなっていますが、全域3ml/l以上であり、貧酸素水塊の形成はみられません。9月には長万部沖に貧酸素水塊が形成されていましたが、暖流の流入により解消されたと考えられます。

湾内外の流速ベクトルの水平分布を図4に示します。噴火湾では、湾口部渡島側から湾内へ流入し、湾内を時計回りに循環後、胆振側から湾外へ流出する流れが明瞭に認められます。したがって、噴火湾では暖流の流入が継続しており、常に水が入れ替わっている状況です。湾外の恵山沖から室蘭沖にかけては強い時計回りの循環流が認められるので、この循環流の一部が湾内の海水交換を促しているものと推察されます。

次の調査は来年2月を予定しています。

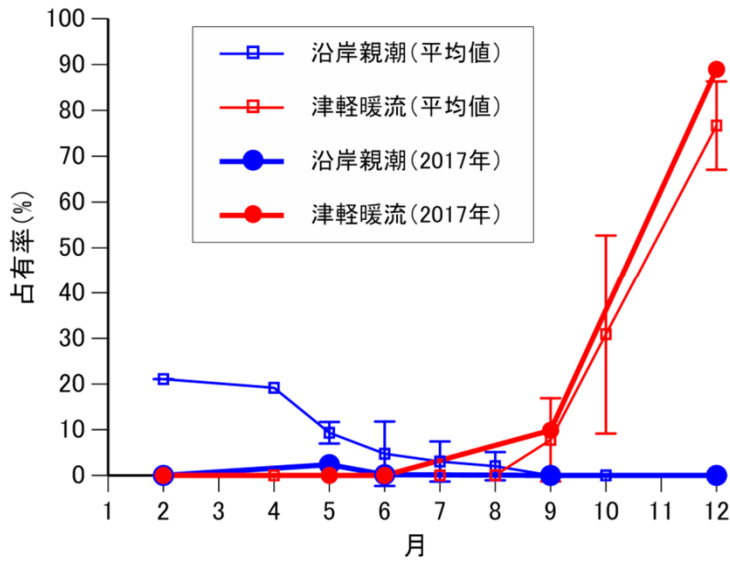


図2 噴火湾における沿岸親潮, 津軽暖流水の占有率

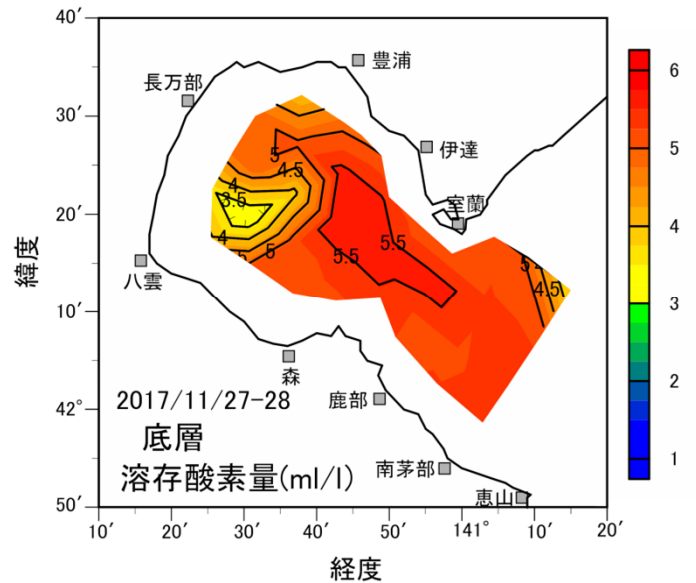


図3 底層の溶存酸素量

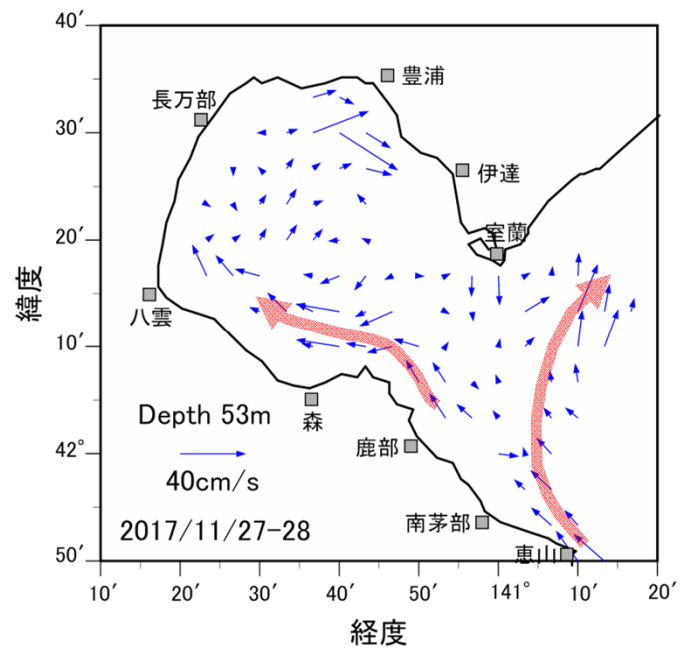
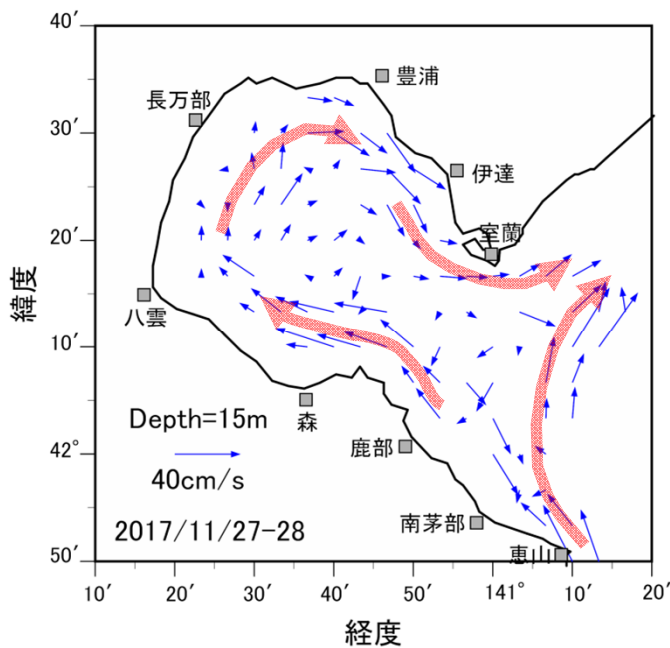


図4 流速ベクトルの水平分布